

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北陸)	良く なっている	通信会社（役員）	販売量の動き	・7月に入り新規申込の問い合わせが増え、また既存加入者からもインターネットサービス、テレビサービス増設の申込が増えている。
	やや良く なっている	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・熊本地震の影響による配車遅れのため、販売できなかった受注分がようやく処理できている。県内の登録車市場も前年分を確保しているので悪い状況ではない。
変わらない		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・7月の販売量は前年同月比で135%の見込みである。4月の販売量は前年同月比で118%であったので、3か月前と比較して上向きである。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・今年の3月ごろまでは来客数が前年割れをすることが当たり前のようだったが、ここ数か月は前年を上回ることが多くなった。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・今年の路線価が発表されて昨年より上がっている場所が少なくないため、活気が戻ったようである。
		商店街（代表者）	競争相手の様子	・商店街はセール期間中も例年と変わらないようだが、買物をする客ではなく街を楽しみに来ている様子である。比較購買できて、駐車場のあるショッピングモールで買物しているようである。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・セール中であるが、来客数はあまり変化がない。晩夏ものが順調に動き始めている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・7月に入って夏物の衣料品の買い控えに回復傾向がみられたが、月末頃には真夏日が続かず夏物商品の売上が伸び悩んだ。夏休みや地元のイベントが予定されることから、相乗効果を期待したい。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	販売量の動き	・定番商品の売上は微増だが、そのほかの商品についてはあまり動きがなかった。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・今年の4月以降は全く変化がない。悪くはないが良くもない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・夏のバーゲンが例年より早めのスタートで、猛暑でもあったため客の動きは非常に良かった。ただし、昨年より土日が1日ずつ多い月にもかかわらず前年を少し上回る程度で、高額品については動きがなく、全体的には今一つの状態である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・今年は梅雨の影響が長引いており、暑さが厳しい状況が続いている。買物量をみてもあまり増えていないのが実情である。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・7月は昨年より暑い日が多く夏物の飲料や酒などの売行きが好調であった。しかし、全体としては前年並みで推移している。参議院選は盛り上がり欠けプラス要因はなかった。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は3ポイントほど減少している。その分、客単価が微増しており、かろうじて前年並みの売上高を維持している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・7月に限って言えば、毎週あった消防操法の大会が施設の移転によって無くなったことで売上ダウンは必至だ。そのほかの部分では大きな変化はみられない。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・ボーナス月ではあるが、客との商談期間が長くなっており、まだ自動車の購入に対して慎重な様子が見られる。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・来客数が少ないためか、販売、修理などが売上に結びついていない。
		自動車備品販売店（役員）	来客数の動き	・ボーナス商戦は例年の盛り上がり欠けていた。しかし、高額商品、スタッドレスタイヤなどのポイント増額イベントには反応は良く、メリットを感じれば購入につながると感じる。裏を返せば価格に敏感である。
		住関連専門店（役員）	販売量の動き	・年度が変わって3か月が経過し、浮き沈みはあるものの著しい上向きの傾向はみられない。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今年の7月は週末が5回あって飲食業としては稼ぎ時が多いが、昨年並みの実績なので厳しい状況は変わらない。	
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク以降の入込客数が、若干ではあるが前年比で減少してきている。	
	都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・宿泊、レストラン、宴会部門のいずれも前年と同じ申込状況であるため、景気動向は変わらないと考える。	

	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客は、夏に入って少しずつ増えている。週末は人出があるが、平日があまり良くないことから、全体的に変わらない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月は大きなイベントが一つあったことから、それが売上に寄与した。
	通信会社（役員）	販売量の動き	・海外などの定額制動画配信サービスの多様化と普及に伴い、高速インターネットサービスに対するニーズは高く、光通信サービスの新規獲得数は高水準で推移している。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・本来であれば、ボーナス商戦や新商品などの発売によって販売数が伸びる時期だが、家族連れの客が少ない上に複数台の購入もあまりなく、販売数は伸び悩んだ。
	通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・新規契約客が減少しても機種変更の客は増加しているため、来客数は持ち直してきている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・住宅ローンの金利など、住宅取得に関する諸条件は最良の状況にあるが、受注数が安定しない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・食料品や飲食関係の売場、店舗はまだ客がいるが、バーゲンだというのに衣料品売場は閑散とした状態である。単価が大きいため売上減に直結している。
	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・6月と違い7月は、選挙の影響もあってかギフトがあまり出なかった。選挙が終わってからギフトが少なく、そのままである。
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・売上は微増だが、来客数は大幅に減少している。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・月を通して土日が多い曜日配列にもかかわらず、前年の売上実績を下回る見込みである。中旬以降は前年の売上実績を超える日が続き、日々ばん回をしているが、月の前半のマイナスをカバーできていない状況である。依然として、購買行動が慎重な客が多く、衝動買いやまとめ買い需要は減っている。顧客の囲い込みを図るため、カード会員向けの優待会の日数を拡大して来店を促しているが、客の反応は鈍い。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・今月も例年と比べて来客数が少ない。セールだからといってすぐには決めずに、吟味して購入する客が多い。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・食品スーパーの来客数が徐々に昨年を下回るようになってきている。市内と郊外の店舗がほぼ同じ現象であるため消費を抑制しているようにみえる。
	コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・前年同月はプレミアム付商品券の効果が絶大であったため、前年比で売上は大幅ダウンした。特に土日祝においては、人手不足によるチャンスロスの傾向がある。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・7月10日頃までとそれ以後では、原因不明の断点があるようだ。選挙、冷夏、円、株の影響ではない。短期間のものなのか、ずっと続くものなのか注意してみたい。7月10日ごろまでは割と良かったが、10日頃からものすごく悪くなった。
	衣料品専門店（経営者）	それ以外	・次々と起こる社会変化に対応するため、節約するという図式が今の状況をあらわしている。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・全国ほとんどの百貨店、スーパーが衣料品の売上不振を言っているが、地方の専門店の実態はもっと悪い。
	家電量販店（店長）	単価の動き	・7月前半は真夏日も多く、夏物商材が爆発的に売れた。しかし、中盤は真夏日が少なく夏物商材の不振により、全体では厳しくなっている。
	その他小売〔ショッピングセンター〕	来客数の動き	・衣料品は盛夏物中心に良くなってきたが、今年に入って来客数の前年割れが続いている状況は変わらない。特に食料品の売上減が大きい。十分に吟味した上で必要以上には買わない傾向が続いている。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・客単価をみると、客の購買意欲自体は大きく変わっていないが、周辺競合環境の影響による来客数の減少がみられる。競合店オープンから1年経過したが、完全に来客数が戻りきっていない。特に衣料品、食料品、飲食業種については苦戦が続いている。
一般レストラン（統括）	来客数の動き	・客単価が高くなるほど客数が前年割れをする傾向がみられる。昨年同時期は北陸新幹線開業効果により、その傾向は感じにくかった。	

	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・7月に入って、景気の下向き傾向がより鮮明になってきた。売上は、ここ数年の中で落ち込みが最も大きい。レストランの高いメニューは売れない。来客数はランチ、ディナー客共に減少している。宿泊客は、新幹線利用客が10%程度減少と聞いているが、バスの団体客がカバーしている。宴会部門は悪い。
	旅行代理店(所長)	販売量の動き	・夏休みの予約が入り始めているが、売上は前年比で下回っている。
	パチンコ店(店員)	販売量の動き	・行政の規制が厳しく、年内は下降気味である。
	その他レジャー施設(総支配人)	来客数の動き	・毎年恒例の夏の特別教室の集客が思うように進まない。
	住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・受注件数、受注金額共に減少しており、先が見えにくい状況になっている。土地の引き合いはあるものの決まらない状況である。
	住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・先月の受注は、計画比で大幅な未達であり、消費税増税の再延期の影響が出て厳しい状況にある。通期でみた場合に、前年比が毎月減少しており、貯金の食いつぶしが続いている。今後の受注契約でのばん回は難しい。
悪く なっている	スーパー(店舗管理)	来客数の動き	・昨年は、プレミアム付商品券などの影響もあると思うが、前年並みの来客数を確保できていない。
	その他専門店[酒](経営者)	販売量の動き	・今月はお中元の時期だが、今までの様子から仕入れをいつもの半分にしたが、売れていない。とにかく景気が悪い。何とか旧盆で少しは売れてもらえたらと思っているが、期待ができない。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・今月は、選挙や天候の影響で出足が悪く、昨年同月の7割という状況である。
	観光型旅館(スタッフ)	来客数の動き	・前年比で総売上84%、宿泊人数83%、客単価98%、4名までの個人客の割合が前年比77%と個人客の低下が目立つ。熊本地震の影響で、全国的な旅行マインドの低下が影響していると考えられる。
	テーマパーク(役員)	来客数の動き	・国内の客については、昨年の北陸新幹線開業効果の反動から、団体、個人共に減少している。また、これまで増加の傾向にあったインバウンド客は、円高の影響により減少している。特に、利用が多い台湾からの観光客が、台湾国内の景気悪化もあってか、来客数が減少しており状況が悪くなっている。
企業 動向 関連 (北陸)	良く なっている	-	-
	やや良く なっている	司法書士	取引先の様子 ・空き家対策、危険家屋対策などにより、これまで動きのなかった不動産の相続登記、売買登記の依頼が増えている。また、相続税対策や資産運用のためのアパート建築、マンション購入が堅調である。
変わらない	繊維工業(経営者)	取引先の様子	・秋冬物受注の最盛期の時期なので、まずまずの状況であるが、慎重な推移にみえる。
	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・今月の受注は前月並みである。
	精密機械器具製造業(役員)	取引先の様子	・為替は、一時の円高からは多少の落ち着きを見せているが、株価の不安定さもあり国内市場としてはあまり良くない状況が続いている。客により状況は異なっており催事などでの売上はそこそこのところもあるが、百貨店系、大手小売店系の店頭では依然として厳しい状況が続いているようである。
	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・公共工事の発注の端境期である4~5月よりは受注が増えている。しかし、手持ちの工事量はここ数年で最も少ない。
	輸送業(配車担当)	受注量や販売量の動き	・先行きが不透明で、今後の荷動きの見通しが立ちにくい。
	輸送業(配車担当)	取引先の様子	・先月と同様に個人消費が伸び悩んでいる状態で変化がみられない。
	やや悪く なっている	食料品製造業(役員)	受注量や販売量の動き
	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・7~9月期の受注確保に苦戦している。国内消費の低迷、暖冬の影響による在庫調整、為替の変動などが影響している。
	一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・国内市場は安定して受注があるが、英国のEU離脱問題により欧州市場は受注が伸び悩んでいる。また、米国は9月にある展示会のために設備投資を控えているようだ。

	一般機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・急速な円高により、取引先の海外現地調達の動きが加速しているようである。若干は円安方向へ戻りつつあるが、依然としてある海外の不安定要素から、今後の為替リスクを回避する方針に変わらない。国内生産の空洞化が進むことが今後の課題である。
	建設業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・特に当地域では、受注競争がし烈となり、価格競争が一段と厳しさを増している。適正価格での受注が難しくなってきた。
	金融業（融資担当）	受注価格や販売価格の動き	・貸出金については、増加基調を保ってはいるものの、貸出金利回りの低下が続いて利息収入自体は減少しており、収益環境は極めて厳しい。
	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	・昨年と比較して、北陸新幹線効果は薄らぎ飲食関係の売上は下がっている。ビール類の売上も悪いとの報告である。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・少し動きがあるという同業者の話も聞くが、今は少し暇で、仕事が止まっている。
	税理士（所長）	取引先の様子	・3か月前に比べて売上高が減少傾向にある顧客企業が多い。建設業は、年度の変り目ということもあるが、受注が少ない状況である。製造業も円高の影響があった。
	悪くなっている	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-
(北陸)	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き ・新規求人数は前年同月比13.6%増となったほか、有効求人倍率についても前年同月比0.25ポイント増となっており、引き続き企業の採用意欲は高い状況となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き ・3か月前の求人数が3,963人、6月が3,997人と0.9%の増加である。一方で、正社員の求人が1,466人から1,610人と、9.8%増加している。この他、有効求人倍率は1.58倍と、非常に高い水準にある。
変わらない		人材派遣会社（役員）	求職者数の動き ・有期契約のため派遣人材が集まらない。それによってマッチング率が低下している。
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子 ・副業、ダブルワークを考える方や希望する方が増えているようである。
		新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き ・7月の求人広告売上は、前年同月比7割である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子 ・求人広告の件数は、前年比6割程度と大きく割り込んでいる。また、項目で見ると正社員とパートのレギュラー枠の求人は前年比7割だが、より単価の大きいフリー枠が3割弱と大きく減っている。求人の中身だけで言えば、緊急性を要する大量出稿が控えられ、正社員とパートの比率も大きく変わらないことから、企業側の人手不足感に残るものの雇用状況は安定しているように考えられる。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子 ・昨年と比べると求人数は増加している。しかし、受注増であっても利益に反映されないという事業所の声が多く、全体として変わらない。
やや悪くなっている		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き ・3か月前に比べて1回の発行で求人数が50件ほど少なくなっている。
		民間職業紹介機関（経営者）	求職者数の動き ・人材紹介や人材派遣の登録者数が少ない状況が続いている。2～3月と比べて今は70%くらいの推移であり、加えて高齢化傾向である。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き ・製造業の追加の求人件数が少なくなった。全体の求人件数も今月に入ってやや伸び悩んでいる。
	悪くなっている	-	-